

佐賀県医療センター好生館 ハイブリッドER装置 調達業務仕様書

項目番号				要件
				ハイブリッドER装置(2room対応X線CT装置及び血管造影装置)については、以下の要件を満たすこと。
1				血管造影装置については、以下の要件を満たすこと。
1	1			X線管/X線検出器保持装置については、以下の要件を満たすこと。
1	1	1		保持装置は天井走行式であること。
1	1	2		全身の血管撮影のため、保持装置は患者長手方向に900mm以上に電動かつ連続的に移動可能であること。
1	1	3		保持装置セット時に患者左右方向からのアプローチが可能であること。
1	1	4		上肢からのアプローチを安全に行うため、保持装置が患者横手方向に2250mm以上に電動かつ連続的に移動可能であること。
1	1	5		CT単独使用時に保持装置が患者上方を通過することなく完全退避可能であること。
1	1	6		保持装置退避位置は、患者左手遠方へ退避可能であること。
1	1	7		保持装置天井支持部が回転し、保持装置全体が $\pm 135^\circ$ 以上回転でき、カテーテルテーブルを回転させず患者の左右どちらにでもCアームを配置可能であること。
1	1	8		保持装置を患者に対し斜めにセットした際、常に患者臨床角に沿ったLAO/RAO、CRA/CAU回転を行うことが可能であること。
1	1	9		FPD部の上下動(密着)は、テーブル再度及びFPD部の近接スイッチにより行えること。
1	1	10		保持装置の患者体軸方向回転に検出器・X線絞りが連動回転することで、常にカテーテルテーブルの頭部方向が画像モニタ上で上方向として表示可能であること。
1	1	11		保持装置を患者頭側に配置したときの保持装置主回転範囲はRA0180°/LA0120°であること。
1	1	12		保持装置の通常使用時における主回転(LAO/RAO回転)が25°/秒以上であること。
1	1	13		保持装置を患者左側に配置した時の保持装置スライド範囲はRA090°/LA070°以上であること。
1	1	14		保持装置の通常使用時におけるスライド回転速度が20°/秒以上が可能であること。
1	1	15		3D撮影時のCアーム最大回転速度は80°/秒以上であること。
1	1	16		保持装置を患者頭側に配置した状態でデータ収集範囲200度以上の3D撮影が可能であること。
1	1	17		保持装置を患者左及び右に配置した状態でデータ収集範囲200度以上の3D撮影が可能であること。
1	1	18		保持装置長手・横手位置、保持装置撮影角度、SID、FOV、カテーテルテーブル高さ、起倒角、補償フィルタ位置、拡大視野サイズを登録し自動設定するオートポジショニング機構を64メモリ以上有すること。
1	1	19		オートポジショニングを検査プロトコル(またはプログラム)毎にシーケンシャルに登録可能であること。
1	1	20		モニタに表示されたMap画像から保持装置長手・横手、保持装置角度、SID、FOV、カテーテルテーブル高さ、カテーテルテーブル長手位置、起倒角を再現可能なオートテーブル機能を有すること。

1	1	21	同室設置したCT装置にて撮影したCT画像の任意のスライド・任意の位置を指定すると、指定した箇所をアイソセンターとして保持装置長手・横手と天板高さをオートで位置合わせ可能であること。
1	1	22	血管撮影装置上で指定した箇所を自動的に中心に位置合わせを行い、CT撮影が可能であること。
1	1	23	血管撮影装置上で指定した箇所が一番近い位置のCT画像を自動で表示可能であること。
1	1	24	X線管、X線検出器は衝突安全機構を有すること。さらに、保持装置とカテーテル寝台との位置関係を監視、制御する干渉防止ソフトを搭載していること。
1	2		X線管装置については、以下の要件を満たすこと。
1	2	1	X線管装置の焦点サイズは、小焦点0.4mm以下、中焦点0.6mm以下、大焦点1.0mm以下であること。
1	2	2	サイズの異なる3焦点を有し、検査中に透視用焦点が断絶した場合に、別焦点で透視を続行できるバックアップフォーカス機能を有していること。
1	2	3	陽極回転支持機構が液体金属ベアリング方式であること。
1	2	4	陽極熱容量は3000kHU以上であり、長時間の透視・撮影になっても検査を中断することが無いこと。
1	2	5	繰り返し撮影に支障をきたすことの無いよう、最大7000HU/秒以上の陽極冷却率を有すること。
1	2	6	パルス透視のX線制御はグリッド制御方式であること。
1	2	7	X線絞り内には、コリメータと被ばく低減用のX線線質調整フィルタを4種類以上装備していること。
1	2	8	線質調整フィルタの選択は自動及びマニュアル操作が可能であること。
1	2	9	面積線量計を装備し、線量率及び積算線量の表示が可能であること。
1	3		X線検出器については、以下の要件を満たすこと。
1	3	1	X線検出器は、平面検出器（FPD）であること。
1	3	2	検出器最大視野サイズは29×39cm以上であり、4段階以上の視野切り替えが可能であること。
1	3	3	検出器読み取りマトリクス数は1500×2000マトリクス以上であること。
1	3	4	検出器画素サイズが80μm以下の高精細画像収集が可能であること。
1	3	5	視野切り替えは最小視野選択時に1辺4cm以下まで拡大可能であること。
1	3	6	電源投入後、最短3分以内にX線透視を行うことが可能であること。
1	3	7	災害時の停電を考慮し、FPDは24時間通電が不要であること。
1	4		モニタ類については、以下の要件を満たすこと。
1	4	1	検査室大画面モニタシステムについては、以下の要件を満たすこと。

1	4	1	1	検査室には天井走行式による58インチ以上の医療用大画面モニタを有すること。
1	4	1	2	大画面モニタは解像度3840×2160画素数以上でDICOM Part14GSDF表示に準拠した医療用高精細カラーモニタであること。
1	4	1	3	検査室の大画面モニタ背面にバックアップモニタを有すること。
1	4	1	4	検査室大画面モニタの上部には、各画像を単画面で切替表示するサブモニタ2面を有すること。
1	4	1	5	18種類以上の映像信号が入力可能な信号配信マネージャーを接続し、大画面モニタに6種類以上の画像を同時に表示する機能を有すること。
1	4	1	6	操作作用タッチパネルにて検査室内の各モニタの表示切替が可能であること。
1	4	1	7	操作室には大画面モニタのクローン画像を表示することのできる49インチ以上の壁掛けモニタを有すること。
1	4	1	8	検査室内に、項目1-4-1-1で示した天井走行式モニタと別に映像表示用のモニタを有すること。
1	4	2		操作室統合モニタシステムについては、以下の要件を満たすこと。
1	4	2	1	30インチ以上の統合モニタを2面有すること。
1	4	2	2	統合モニタは、Live画像/Ref画像/3Dワークステーション/CTコンソール等当館指定の複数映像を1画面に統合して分割表示する機能を有すること。また、表示レイアウトの切り替え、統合モニタに接続されている画像端末の制御を行う機能を有すること。
1	4	2	3	操作室側に、項目1-4-2-1で示した統合モニタと別に血管撮影装置用のシステムモニタ（20インチ以上）を有すること。
1	5			カテーテルテーブルについては、以下の要件を満たすこと。
1	5	1		長手方向1350mm以上の移動が可能であること。
1	5	2		横手方向±200mmの移動が可能であること。
1	5	3		長手方向+16°～-16°の範囲で起倒が可能であること。
1	5	4		横手方向+16°～-16°の範囲で起倒が可能であること。
1	5	5		患者胸部位置の天板幅は450mm以上であること。
1	5	6		天板のX線吸収率は1.5mmAl（アルミニウム）当量以下であること。
1	5	7		天板上下動は床面から天板上面まで、754mm以下～1054mm以上の範囲で可能であること。
1	5	8		緊急時の対応のため、+90°～-90°の範囲で回転ができること。
1	5	9		耐荷重は250kg以上、心臓マッサージ（CPR）時の追加荷重は100kg以上であること。
1	5	10		テーブルサイドにタブレットコンソールを搭載し、保持装置オートポジション選択、画像選択・再生、MAP作成、撮影プログラム選択等が可能であること。
1	5	11		タブレットコンソールに表示されたCアームグラフィックにより、オートポジショニング操作が直感的に可能であること。

1	5	12		タブレットコンソールにて3Dワークステーション内3D画像の回転・パンニング等の操作が可能であること。
1	5	13		保持装置操作はテーブルサイド設置のコンソール以外でも操作できる環境であること。
1	5	14		天板上下動・起倒とテーブルパンニング動作の行える専用コンソールを有すること。
1	5	15		X線照射は有線フットスイッチおよび無線フットスイッチを有すること。
1	5	16		カテーテルテーブル取り付け型のX線防護クロスを有すること。
1	5	17		頭部固定具を一式有すること。
1	5	18		ドレープホルダを一式有すること。
1	5	19		厚さ5cm以上のテンピュール製マット1枚を有すること。
1	5	20		患者腕置き用のカーボン製腕置台一式を有すること。
1	5	21		CT撮影範囲延長のため、天板長さを頭側へ延長するカーボン製延長天板を有すること。
1	5	22		心臓マッサージ用カテ寝台固定棒を有すること。
1	6			X線高電圧発生装置については、以下の要件を満たすこと。
1	6	1		高電圧発生方式は、インバータ方式であること。
1	6	2		公称最大電力は、100kW以上であること。
1	6	3		短時間定格、100kV-1000mA、125kV-800mA以上の性能を有すること。
1	6	4		撮影時間は、最短1msec以下の性能を有すること。
1	6	5		パルス透視が可能で、15pps以上のパルスレートを選択可能であること。
1	6	6		20pps、10ppsを含む9段階以上のパルスレートが選択可能であること。
1	6	7		自動で撮影条件が設定されること。
1	6	8		品質管理のため、マニュアルにより撮影条件が設定可能であること。
1	7			デジタルラジオグラフィ装置および本体付属ワークステーションについては、以下の要件を満たすこと。
1	7	1		透視機能については、以下の要件を満たすこと。
1	7	1	1	1024マトリクス16bitにて、最大30ppsの透視が可能であること。
1	7	1	2	画像処理をリアルタイムに透視像に施し、検査目的に応じた最適な透視画質を表示できること。
1	7	1	3	検査目的毎、または術者毎に透視画像処理条件を登録し、検査開始時に自動セットすることが可能であること。
1	7	1	4	透視画像のデジタル拡大が可能であること。

1	7	1	5	FPDのFOV選択とは別に、透視像をリアルタイムに1.1~2.4倍の間で3段階以上の拡大表示が可能であること。
1	7	1	6	X線絞り、補償フィルタの現在位置、移動状態を透視のラストイメージホールド画面上でグラフィック表示できること。
1	7	1	7	指定した関心領域にのみX線曝射し、その周囲はラストイメージホールド画像を表示するスポット透視機能を有すること。
1	7	1	8	透視中の任意タイミングの静止画またはラストイメージホールド像を本体記録媒体へ記録できること。
1	7	1	9	透視中、X線OFFした時から最大900フレーム以上遡っての透視画像を常にメモリ上に保存し必要に応じて本体記録媒体に記録可能であること。
1	7	1	10	透視動画記録操作はフットスイッチでも行えること。
1	7	1	11	透視ロードマップ、透視ランドマーク（背景+血管+デバイス）処理が可能であること。
1	7	1	12	透視ロードマップ、ランドマークの血管背景画像は、DSA像及び透視ピーク画像のどちらも選択可能であること。
1	7	1	13	DSA画像を使用する透視ロードマップについて、DSA撮影後マスク選択等のマニュアル操作の一切を省略するフルオートの透視ロードマップが可能であること。
1	7	2		画像収集・処理・表示機能については、以下の要件を満たすこと。
1	7	2	1	透視/DA撮影/DSA撮影において1024×1024マトリクス、16bit以上で15pps以上の収集が可能であること。
1	7	2	2	ワンショット撮影において1024×1024マトリクス、16bit以上の収集が可能であること。
1	7	2	3	回転DA撮影において1024×1024マトリクス、16bit以上で15pps以上の収集が可能であること。
1	7	2	4	回転DSA撮影において1024×1024マトリクス、16bit以上で15pps以上の収集が可能であること。
1	7	2	5	本体の記録媒体は1024×1024マトリクス画像を200,000枚以上記録可能であること。
1	7	2	6	本体の記録媒体は故障による画像消失のリスクを低減するRAID1を採用していること。
1	7	2	7	撮影画像中のキーフレームを、最大900枚以上、静止画登録（Map登録）することが可能であること。
1	7	2	8	表示されているMap像から元の動画像をワンタッチで再生できる機能を有すること。
1	7	2	9	透視中であっても検査室/操作室双方で参照画像を動画で観察可能であること。
1	7	2	10	検査室/操作室どちらでも透視中に参照画像の動画選択、表示、Map作成・切替等の操作が可能であること。
1	7	2	11	デジタルラジオグラフィ装置本体の参照画像モニターに、透視中でも動画像が再生可能であること。
1	7	2	12	参照画像は透視中であってもデジタルラジオグラフィ装置本体上で動画Mapと別シリーズの静止画をそれぞれ同時に表示可能であること。
1	7	2	13	モニタの画像表示エリア外に撮影画像のサムネイルを常に表示し、検査室/操作室から任意画像を選択、再生可能であること。
1	7	2	14	検査室側での透視/撮影/動画再生/Map作成等と並行して、操作室側でも当該検査のMap作成/解析/次患者登録/任意患者のフィルミング/画像処理/DICOM CD-Rへの画像記録及びネットワーク送信操作等の各種操作を可能であること。

1	7	2	15	撮影像のデジタル的な拡大が最大5倍以上で表示が可能であること。
1	7	2	16	検査室側のテーブルサイドコンソールで、撮影画像のWW/WL調整/撮影プログラム選択などのデジタルラジオグラフィ装置の機能进行操作できること。
1	7	2	17	テーブルサイドコンソールにタッチパネル操作卓を採用していること。
1	7	2	18	現在の保持装置角度に最も近い角度情報を有する参照画像をワンタッチで表示できること。
1	7	2	19	撮影画像の観察角度をワンタッチで保持装置の角度で再現可能であること。
1	7	2	20	画像へのコメント入力、コメント入力時にプルダウンメニューから定型文選択が可能であり、日本語に対応していること。
1	7	2	21	1台の装置で多目的の検査に対応するため、術者や検査種類毎に、画像表示/処理条件/モニタ情報表示項目/ネットワークやCD-Rへの画像記録条件/使用する撮影プログラム/画像コメントのリスト内容等の装置セッティング環境を選択変更し、常に最適な状態で検査を進めることが可能であること。
1	7	3		画像保管、ネットワーク通信、患者登録については、以下の要件を満たすこと。
1	7	3	1	DICOM形式でCD-R、DVD-Rへ画像記録が可能であること。
1	7	3	2	システムは、DICOM Storage(Storage SCU)/DICOM Storage Commitment(Storage Commitment SCU)/DICOM Modality Worklist Management/DICOM Modality Performed Procedure Step/DICOM Print/DICOM Radiation Does Structured Reportに対応していること。
1	7	3	3	PACS等の画像送信先について、検査プロトコルまたはプログラム毎に登録可能であること。
1	7	4		アプリケーションについては、以下の要件を満たすこと。
1	7	4	1	脳動脈瘤の治療に対し母血管の計測を自動で行い、ステント留置のシミュレーションが可能であること。
1	7	4	2	3D画像上の腫瘍とカテ先を指定することで、腫瘍に対する栄養血管候補を自動的に抽出する機能を有すること。
1	7	4	3	栄養血管候補の自動抽出はコーンビームCT撮影だけでなく、同室で使用するCT画像でも可能であること。
1	7	4	4	DSAで得られる各画素毎のTime Density Curveを利用し、造影剤が到達した画素値の変化をカラーで表現することが可能であること。
1	7	4	5	DSAをTTA(Time to Arrival)に基づきカラー循環表示(動画表示)を行い、動的に造影剤の流れる方向を表現することが可能であること。
1	7	4	6	デバイスのマーカを検出しX線照射中に画像固定し加算することで、リアルタイムにステントの視認性を向上する機能を有すること。
1	7	4	7	バルーンマーカの有無に関わらず、冠動脈用ステントデバイスの視認性を向上する専用の画像処理機能を有すること。
1	7	4	8	仮想患者モデル上での入射皮膚線量をリアルタイムに積算し、積算線量値に対応したカラー表示と最大入射皮膚線量(Peak Skin Does)の表示が可能であること。
1	7	4	9	下肢血管の造影用にハレーションを抑えた専用DA撮影プロトコルを有し、透視/撮影が可能であること。
1	8			血管造影装置の周辺機器については、以下の要件を満たすこと。

1	8	1	天井走行式X線防護パネルを有すること。
1	8	2	天井走行式のLED型無影灯を有すること。
1	8	3	アンギオ撮影対応一筒式オートインジェクターを天井走行式またはスタンド式で一式有すること。
1	8	4	X線曝射と連動して録画開始/停止が可能な録画端末を1台有すること。
1	8	5	項目1-8-4の録画端末から出力した画像を確認できるノート型PCを一台有すること。
1	8	6	検査室内観察用のカメラを2台以上設置し、操作室の血管造影側とCT側のそれぞれから観察できること。
2			X線CT装置については、以下の要件を満たすこと。
2	1		ガントリ本体については、以下の要件を満たすこと。
2	1	1	ガントリは780mm以上の開口径を有すること。
2	1	2	X線管球と検出器が一体となって連続回転する第三世代方式であること。
2	1	3	ガントリ傾斜付きスキャンが可能であること。
2	1	4	ガントリ傾斜付きで螺旋状スキャンが出来ること。
2	1	5	ガントリ内の回転方式は、静粛性に優れたダイレクトドライブ方式であること。
2	1	6	スキャンにおけるガントリ回転速度は最速0.35秒以下であること。
2	2		X線高電圧発生装置については、以下の要件を満たすこと。
2	2	1	最大出力は72kW以上であること。
2	2	2	X線管電圧は80kV/100kV/120kV/135kVの4種類以上から選択可能であること。
2	2	3	最大管電流は600mA以上の出力が可能であること。
2	2	4	最小管電流は10mA以下の出力が可能であること。
2	2	5	X線管球のターゲットの熱膨張による影響を制御する機構を有すること。
2	2	6	連続照射時間は100秒以上であること。
2	3		X線複数列検出器については、以下の要件を満たすこと。
2	3	1	X線複数列検出器は、X線利用効率の高い個体検出器を有すること。
2	3	2	最小撮影コリメーション厚は実装0.5mm以下であること。
2	3	3	X線複数列検出器の体軸方向(Z方向)の検出器列数は実装で80列以上であること。
2	3	4	コンベンショナルスキャン1回転で160スライス以上の収集が可能であること。

2	3	5	X線検出器の最大収集可能範囲は体軸方向に40mm以上であること。
2	3	6	X線複数検出器の回転方向(XY方向)の検出器チャンネル数は実装で896ch以上のものを有すること。
2	3	7	最大ビューレートは秒間2572ビュー以上であること。
2	3	8	空間分解能は21.5lp/cm以上の性能を有すること。
2	3	9	密度分解能は2mm/0.3%より優れていること。
2	3	10	CT値の測定と表示は-32.768~+32.767の範囲以上であること。
2	4		X線管球については、以下の要件を満たすこと。
2	4	1	X線管球の陽極熱容量は、実装7.5MHU(IEC規格)以上を有すること。
2	4	2	X線管球の最大陽極冷却効率は、IEC規格で1386kHU/分以上の性能を有すること。
2	4	3	X線管球焦点は二焦点以上であり、小焦点のサイズがIEC規格0.9mm以下であること。
2	4	4	被ばく低減のため、X線管電流自動制御機能を有すること。
2	4	5	X線管球側に被ばく低減のため、X線濾過フィルタを有すること。
2	4	6	水晶体/乳房の調節被ばく軽減のため、一定の角度のX線強度を調整することができる機能を有すること。
2	5		スキャン性能については、以下の要件を満たすこと。
2	5	1	撮影方式として、コンベンショナルスキャン及び螺旋状スキャン機能が搭載されていること。
2	5	2	螺旋状スキャンにて、被検者の体厚に応じて最適なX線量となるよう管電流が自動制御される機能を有すること。
2	5	3	螺旋状スキャン撮影は、実装の検出器列数で80列以上同時に収集が可能であること。
2	5	4	関心領域内濃度(CT値)を12回/秒以上連続計測し、最適な造影タイミングでの螺旋状スキャン撮影を開始/支援するモニタリングスキャン機能を有すること。
2	5	5	造影撮影に用いるモニタリングスキャンに表示されるリアルタイム画像は、逐次近似応用再構成処理を同時に処理することが可能であること。
2	5	6	Angio-CTとして使用する際に、一度撮影した位置決め像を「CT→Angio→CT」と撮影手技を行った際に流用できること。
2	5	7	CT透視機能を有すること。
2	5	8	CT透視撮影機能は、3断面リアルタイム同時表示が可能であること。
2	5	9	CT透視撮影機能は1回転撮影モードの選択にて40mm幅以上のデータを取得でき、CT透視専用画面上でMPR画像の作成が可能であること。
2	5	10	造影前後の螺旋状軌道を一致させることで、高精度なサブトラクションが可能な機能を有すること。
2	5	11	心電図波形に同期した撮影が可能な機能を有すること。

2	5	12		一連の撮影において、寝台移動速度を変調可能な機能を有すること。
2	6			コンピュータについては、以下の要件を満たすこと。
2	6	1		操作コンソールのメインメモリ容量は合計で64GB以上であること。
2	6	2		独立して動作する撮影用操作卓と画像処理操作卓を有すること。
2	6	3		磁気ディスクは915GB以上の容量を有すること。
2	6	4		画像再構成マトリクスは最大512×512以上で、画像表示マトリクスは最大1024×1024以上が可能であること。
2	6	5		画像ネットワークの対応はDICOM3.0規格に準じていること。
2	7			その他解析機能については、以下の要件を満たすこと。
2	7	1		低被ばく及び高画質を実現するために、DeepLearningにて設計された画像再構成技術を有すること。
2	7	2		金属アーチファクト(ダークハンド)除去専用の逐次近似法を応用した画像再構成処理を有すること。
2	7	3		3次元画像処理機能をCT本体に標準装備し、ボリュームレンダリング処理/MPR/CPR/最大値投影法/最小値投影法を有すること。
2	7	4		腹部、胸部及び血管に特化した非線形サブトラクションを行える機能を有すること。
2	7	5		デュアルエネルギー撮影が可能な機能を有すること。
2	8			ガントリ移動機能については、以下の要件を満たすこと。
2	8	1		CT装置と血管造影撮影装置を組み合わせた複合システムの検査室(Angio-CT室)とCT検査室の2部屋にまたがり、ガントリを移動できるガントリ移動ベースを有すること。
2	8	2		血管造影撮影装置検査室では、同室に設置可能な血管造影撮影装置のカテーテル寝台を共有しガントリが前後動することによって、ヘリカルスキャンを含むスキャンと位置決め撮影が行えること。
2	8	3		CT検査室ではガントリを所定の位置にセットして、CT寝台の天板がスライドすることによって位置決め撮影及びヘリカル撮影を含むスキャンが行えること。
2	8	4		スライディングガントリ使用時における螺旋状スキャン撮影速度は、最高速96mm/秒以上が可能であること。
2	8	5		スライディングガントリ方式による螺旋状スキャンは、最速0.35秒/回転以下を使用可能であること。
2	9			X線CT装置の周辺機器については、以下の要件を満たすこと。
2	9	1		CT検査室及び血管造影撮影検査室にそれぞれ2シリンジタイプの造影剤自動注入器を有すること。
2	9	2		項目2-9-1で示した造影剤自動注入器には、検査室内で注入状況を確認できる圧監視モニタを含むこと。
2	9	3		項目2-9-1で示した造影剤自動注入器には、当館で運用しているRIS及び画像サーバーと連携して造影剤注入状況を管理できる機能を有すること。
2	9	4		CT室内観察用カメラを一式、前室廊下観察用カメラを一式以上設置し、操作室の血管造影側とCT側のそれぞれから観察できること。

3	1		ネットワーク通信については、以下の要件を満たすこと。
3	1	1	当館で運用しているRISとMWM/MPPS通信を行うこと。
3	1	2	当館で運用しているRISは、富士フィルムメディカル社製「F-RIS」であることを明示する。
3	1	3	当館で運用している線量管理システムとDICOM通信を行うこと。
3	1	4	当館で運用している線量管理システムはPSP株式会社製「MINCADI-CUBE」であることを明示する。
3	1	5	当館で運用している画像サーバーとStorage通信を行うこと。
3	1	6	当館で運用している画像サーバーは富士フィルムメディカル社「SYNAPSE」であることを明示する。
3	1	7	当館で運用している画像処理用ワークステーションとStorage通信を行うこと。
3	1	8	当館で運用している画像処理用ワークステーションは、アミン社製「ZIOSTATION2 PLUS」及び富士フィルムメディカル社製「SYNAPSE VINCENT」であることを明示する。
3	1	9	当館で運用している動画画像ファイリングシステムと接続を行うこと。
3	1	10	当館で運用している動画画像ファイリングシステムは、Nexis社製「Nahr i AQUA」であることを明示する。
4	1		その他周辺機器については、以下の要件を満たすこと。
4	1	1	椅子を4脚以上有すること。
4	1	2	操作室に設置する机を一式有すること。
4	1	3	画像処理用ワークステーション端末(アミン社製：ZIOSTATION2 PLUS)を1台有すること。
4	1	4	Bluetooth対応の音響システム一式を2つ有すること。
5	1		装置の搬入、設置、調整については以下の要件を満たすこと。
5	1	1	本仕様書に挙げた装置について、当館の指定した場所に設置すること。
5	1	2	搬入及び設置にあたって、放射線管理区域内で作業をする場合は当館のマニュアル等を遵守して安全を第一に行うこと。
5	1	3	本仕様を満たした装置の据付、配線、調整等の工事について落札業者の負担にて行うこと。
5	1	4	装置及び周辺装置の配線等は、当館の担当者と十分協議したうえで施工すること。
5	1	5	装置の設置にあたっては、当館の設置条件に照らし合わせて電気(分電盤)容量、建築基準、消防法等関連法規に抵触しないようあらかじめ確認すること。
5	2		サービス体制、保守体制については以下の要件を満たすこと。
5	2	1	装置の故障、不具合に対して、保守等に関する契約を締結するか否かに関わらず夜間及び祝日でも修理の対応、連絡体制が整備されていること。
5	2	2	障害が発生した際に、早急な復旧を可能にするサービス体制を有すること。

5	2	3	故障時には当館の依頼から3~4時間以内に一次対応が可能であること。
5	2	4	納入検収後1年間は無償で保守点検を行うこと。
5	2	5	本装置の導入後1年以内に行った、調整・修理等全ての作業について、作業内容を都度当館担当者へ報告すること。
5	2	6	電話回線を使用したオンラインでの保守管理が24時間可能なリモートメンテナンス体制を敷くこと。
5	3		運用、教育体制について以下の要件を満たすこと。
5	3	1	当館に操作説明員を派遣し、担当医師及び担当技師への教育訓練を行う。必要に応じて、派遣または電話対応等の体制を確保すること。
5	3	2	操作マニュアルは、日本語版を当館が必要とする部数提供すること。
5	4		その他
5	4	1	令和8年4月30日までに、本仕様書に掲げる装置について、搬入・設置・据付・調整等を完了すること。
5	4	2	提案する装置は入札時点で『医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律』（薬機法）に定められている製造・販売の承認を受けていること。
5	4	3	導入時までには装置の仕様変更やソフトウェアのバージョンアップがあった場合は、当館担当者と協議の上、対応すること。
5	4	4	導入機器の一覧及び添付文書等一式を提出すること。
5	4	5	導入機器の設置時レポートまたは、出荷時のデータ等を提出すること。
5	4	6	導入前に、導入先担当者と納入スケジュールを確認し、合意の得られた日程で作業を進めること。また、計画書類を提出する等をし、情報の齟齬が無いように努めること。
5	4	7	装置の設置にあたって、装置の仕様環境整備のために必要な各種測定等は契約の範囲内でおこなうこと。
5	4	8	装置の設置にあたって、使用許可等関係行政機関への届け出申請が必要な場合は、納入業者は届け出申請書類の作成支援を行うこと。
5	4	9	装置の設置調整にあたっては、当館担当者との協議の上、その指示によること。
5	4	10	装置の設置調整にあたっては、当館スタッフとの協議の上、その指示によること。また、搬入の際には納入業者が立ち会うこととし、当館に損傷を与えないように注意を払うように努め、必要がある場合、搬入経路に養生等を施すこと。
5	4	11	本装置の円滑な運用を実現するため、点検、調整及び技術サポートを行える体制であること。